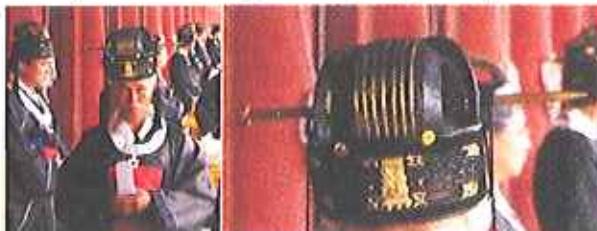


## 朝鮮石人像を訪ねて（9）

深田 晃二

### ★ 石人のかぶる帽子のこと ★

訪ねて（8）で、『冠（カンカン）の筋状の梁（ヤンヨ）の数は一品が5梁という定義（國朝五禮儀）と異なり済州島で7梁の展示品があるが、済州島の特殊性ではないと思われる』と書いた。朝鮮王朝歷代の王と王妃などが奉安された宗廟で行われた「宗廟大祭 2009.5.3」というパンフレットには下の写真が載っている。ここでの大祭と言えば礼儀に則った催しといえるが、やはり7木の梁である。



何事も時代と共にエスカレートするものであるが、その例に漏れずという所か。

階段状の帽子・布帽（ボモアモ）について『紗帽サモ（100ウォン硬貨の人物がかぶっている帽子）を作り、鉄や角の装飾的な帶（横に張り出した飾り？）から布製の帯に変え前で縛って後ろに垂らした帽子（漢文意訳）』と國朝五禮儀の説を、訪ねて（1）で書いたが、一昨年中国上海へ行った時に写真（下中）の様な銅像を見かけた。名前から明代末期の中国の曆数学者・キリスト教徒の徐光啓（1562年～1633年）という人物で、写真左は上海の光啓公園にある徐光啓の石造だ。



横向きの帶の高さが違う様だが、100ウォン硬貨の人物のかぶる帽子と極似している。文化的な共通点を強く感じたので紹介させて頂いた。

### ★ 東京根津美術館 ★

五月GWに孫訪問の帰りに東京表参道の根津美術館を訪ねた。根津美術館は、東武鉄道の社長などを務めた実業家・初代根津嘉一郎（1860～1940）が暮年に蒐集した日本・東洋の古美術品コレクションを保存し、展示するためにつくられた美術館である。訪ねて（7）で二枚の写真をネットから借

用して載せたが、今回は自前の写真で紹介する。



展示館の南に広大な庭園があり、石塔・石像などの石像物が数多く屋外展示している。簡単な説明板

の有るものもあるが、どこから来たのか分からぬるものも沢山見かけた。

### ★ 望柱石 ★

まず迎えてくれるのが一対の望柱石だ。セホ（セヒ）細虎はどちらにも上向きに陽刻されて入口正面に向かっている。細虎は六角形の上台の尖った角の上に有るので、上台の尖った角が正面に来ている。細虎の方向にいか法則でもあるのかは今後の課題である。

これには説明板があるが、日本語では「朝鮮朝鮮時代 17世紀」としか書いてないが、英語の方は「墓の前に置かれた対の石柱」と書かれている。見る人の何%がこのこと（墓の前に置いてあったものだということ、それがここにあるという事）を理解するかと思うと、日本語にもこの表記がほしい。



### ★ 毛糸の防寒帽石人 ★

次に川会うのが毛糸の防寒帽の様な帽子をかぶった石人一対である。（7）では笏をもっていないから童子であろうとした。（8）



では東京・善養寺、天理大学、京都・高麗美術館の石造比較から肖をかぶった武人としている。

造園業者(千葉水石)のHPでは「文人像、高5尺、朝鮮御影石(高さはH測、石質は推察)」とある。笏を持たず刀も持たず帽子も宵なのかどうか不明でありこれも今後の課題である。

### ☆ 童子像 ☆



此には説明板があり、「侍童像 朝鮮 朝鮮時代 16~17世紀」とある。童子像ではなくて侍童像としているのは、君主に侍る(はべる)児童であることを強調している事が英文説明から分かる。

顔立ちは京都博物館や京都千本通五辻や京都ギンモンドの童子像と比べると少し大人びているように見える。

### ☆ 石羊 ☆



庭園の最南端に1対の石羊がある。写真では同じ方向を向いている様に見えるが、道の両脇から通行人を見つめる様に向かい合って設置してある。姿は角(つの)のカーブや耳を這う耳(?)などから少し差異がある様に見受けた。違う場所から1体ずつ運んでここで1対になったものではないか。

### ☆ 文人像 ☆

筋状の帽子をかぶった1対の文人像がある。笏と頭がはっきりと分離していない点、服の模様、大きさなどからこれは元々の1対のようである。

只、筋状の染紋が違う。対でありな



がら位階の違う文人像があるのかこれも課題としておく。

### ☆ その他の朝鮮石造物 ☆

下左は入口で来訪者を迎える長明燈。真ん中の長明燈には「朝鮮時代 15~16世紀」、英文にはここも「墓前に」とある。庭内には少なくとも3基はある。



説明板はなかったが下の3枚の写真の塔はその作りや格好から見て朝鮮のものと考えられる。



左の塔は説明板によると高麗浮屠(ふと)「高麗時代 10世紀」。高僧の遺骨を納めた墓塔又は威徳を顯彰するために供養塔で花崗岩製だそうである。

その他にも沢山の石造物があつて見逃しているものがあるかも知れない。ご存じの方ご教示願いたい。

### ☆ その他の石造物 ☆

九重塔・五輪塔・宝篋印塔・灯籠など日本の物も多くあり、石造物教材の豊富な場所である。中には大きな五輪塔の碑文を削り取って何が書いてあるか分からなくなってしまったものもあった。事情があるのであろう。(続)



宝篋印塔



碑面の削られた五輪塔